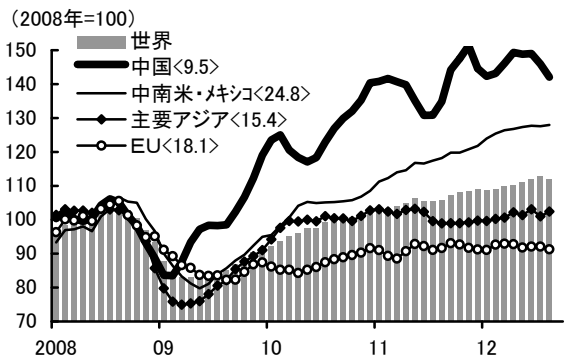


米国輸出を下支えする石油製品のメキシコ・中南米向け輸出の拡大

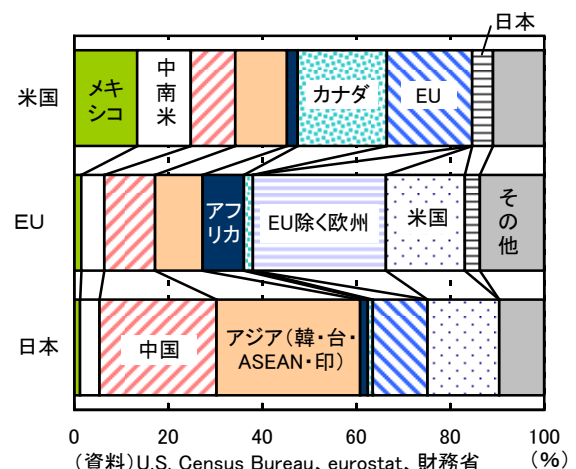
- (1) 足許の米国輸出は、EU向けの低迷や中国向けの頭打ちを背景に、弱含み(図表1)。もっとも、輸出先の分散や石油製品輸出の増加などを踏まえると、輸出が大幅に減少する可能性は小。
- (2) まず、米国の輸出は、EUや日本に比べ、仕向け先の偏りが少ないことが特徴(図表2)。とりわけ、比較的景気が堅調なメキシコ・中南米向けの割合が大きく、中国の景気減速や欧州の景気悪化の影響が抑制される構造に。
- (3) 次に、近年の米国輸出を品目別にみると、産業資材の輸出額が過去5年間で約80%増加し、輸出の拡大に寄与(図表3)。「シェールガス・オイル革命」により米国の原油・天然ガスの生産が増加。それに伴う原料コストの減少により米化学産業の競争力が向上し、化学製品の輸出が拡大。
- (4) 加えて、産業資材の約2割を占める石油製品の輸出額は、過去5年間で約200%増と増勢が顕著。石油製品輸出を地域別にみると、メキシコや中南米向けが増加に大きく寄与(図表4)。新興国の経済成長が石油製品の需要拡大を牽引。
- (5) 今後を展望すると、メキシコや中南米諸国では、自動車などの製造業の進出加速や、中間所得人口の増加による個人消費の拡大などを背景に、工場の熱源や自動車の動力源として石油製品需要の増加が続く見通し。石油製品のメキシコ・中南米向け輸出の拡大が、米国輸出の下支えとなる公算。

(図表1) 地域別実質輸出
(季調値、3ヵ月移動平均)



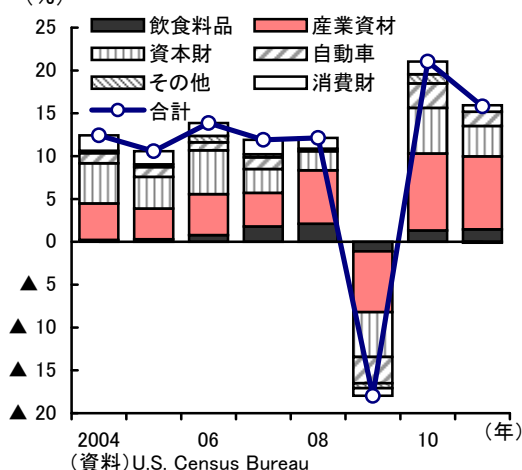
(資料) U.S. Census Bureau, Bureau of Labor Statistics (年/月)
(注1) 地域別実質輸出は日本総研作成。<>は2011年のシェア。
(注2) 主要アジアは、日本・韓国・台湾・ASEAN・インド。

(図表2) 輸出の地域別割合(2011年)



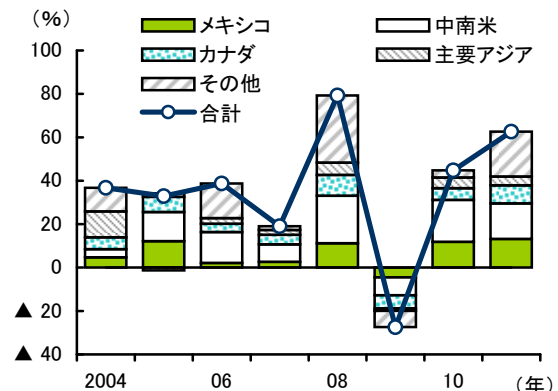
(資料) U.S. Census Bureau, eurostat, 財務省 (%)

(図表3) 品目別輸出(前年比寄与度)



(資料) U.S. Census Bureau

(図表4) 地域別石油製品輸出
(前年比寄与度)



(資料) U.S. Census Bureau
(注) 主要アジアは、日本・中国・韓国・台湾・ASEAN・インド。